



令和5年度 横浜市幼保小連携推進地区事業

日野地区活動報告 (春日野幼稚園・日野小学校)

推進テーマ

「子どもたちの育ちと学びをつなぐ幼保小連携の推進」

推進内容

- ①幼小接続期の持続的な交流の在り方
- ②定期連絡会や公開保育・授業を通じた顔が見える関係づくり
- ③子どもの発達についての研修会実施



推進テーマについて

○令和3年度は、それまで曖昧であった幼保小連携事業の目的や年間計画や目標を設定した。

令和4年度は、これからの2年間の取組で、必然性があり効果的な連携の形を研究・実践することにより、連携計画を確立し、交流事業の活性化を図りたいと考え、推進テーマを設定した。

令和5年度は推進地区最終年。そのため、コロナ禍以前の幼保小連携の形の定着を図るべく、ブロック交流会を設定し、定期的な園と小学校の職員交流を再スタートした。

(区幼保小教育交流事業との連携)



今年度の重点取組

- ・園と小学校の職員交流の定期化
- ・幼保小職員連絡会（交流会）設置
- ・参観や研修、連絡会により、各園・小学校の保育及教育方針の理解を深める。

今年度の活動1-① 職員の交流・研修

- ◆ 5月
 - ・ 小学校運動会を幼稚園職員が参観。
- ◆ 6月
 - ・ 区内ブロック交流会（区幼保小教育交流事業と連携）
各園・校の年間計画 保育・教育方針 公開保育・授業の共通理解。
- ◆ 7月
 - ・ 第1回推進委員会。事業目標の確認、年間計画を協議。
- ◆ 8月
 - ・ 幼稚園・小学校の教育目標等の相互理解研修（紙面資料交換）
- ◆ 10月
 - ・ 港南地区 「すこやか子育て講演会」参加 港南公会堂
講演テーマ「助産師の立場から、いのちの大切さを伝える性教育」

今年度の活動 1 -② 職員の交流・研修

- ◆ 10月②
 - ・ 幼稚園運動会を小学校職員が参観。

- ◆ 11月
 - ・ 幼稚園公開保育参観（区幼保小教育交流事業と連携）
 - ・ 小学校公開授業参観（区幼保小教育交流事業と連携）

- ◆ 12月
 - ・ 区内ブロック交流会（区幼保小教育交流事業と連携）
公開保育、授業のふり返し。情報交換。

- ◆ 2月(予定)
 - ・ 第2回推進委員会 年間活動の振り返り 次年度活動計画協議
入学予定の園児に関する引継ぎ作業。

令和5年6月13日

港南区 幼保小教育交流事業 《第2ブロック交流会》

会場 日野小学校

司会担当...会場校

次第

- 1 始めのあいさつ（15:30～）...会場校校長
- 2 幼保小教育交流事業及びブロック交流会の目的について...会場校校長
- 3 参加者自己紹介（15:40～）...各学校・園からの参加者
- 4 総会資料の確認（16:00～）...会場校校長
- 5 公開授業・保育についてのお知らせ（16:10～）...担当学校・園から
- 6 情報交換（16:15～16:40）
 - ・幼保小交流についての各園・小学校の現状及び予定等
 - ・「すこやか子育て講演会」（10月17日実施予定）への要望があればお願いします。
- 7 終わりの言葉（16:40～）...公開保育園の施設長



公開授業・職員の交流

11月14日(火)

- ▶ 1年生の図画工作の授業「はこでつくろう」を公開しました。



公開授業後、協議を行い、支援の内容、目的について意見交換しました。





今年度の活動 2 園児と児童の交流

- ◆ 12月
近隣公園で、合同で花壇に球根植え。インフルエンザ等の影響により、園・小学校別日で実施。
- ◆ 1月
年長園児を小学校に招待し、小学1年生が校内を案内したり5年生が小学校生活を紹介したりする活動を行った。
- ◆ 2月(予定)
1年生と年長園児が1月の交流活動をふり返り、メッセージの交換を行う。

園児・児童の交流

1月24日(水)

- ▶ 1年生が「ようこそその会」を進行します。



じゃんけん列車をして 仲良しになりました。



園児・児童の交流 1月24日(水)

教室や図書館にも行きました。

やさしく 校内を案内しました。



園児・児童の交流

1月24日(水)

5年生とも交流しました。ランドセルやお道具箱などの説明をしました。



ペア学年になるかも。



成果と課題

成果

- (1) 推進地区の園・校を含む幼保小ブロック交流会を実施した。過去3年間、地域内の園と校が集合する機会が無かったので好評を得た。ブロック交流会では、施設長や園・校長の自己紹介から始まり、各施設の状況、運営、教育方針などを伝えあった。相互理解を深め、顔が見える関係作りができた。
- (2) 同じくブロック交流会や推進地区の園・校の話し合いでは、特別支援に関する事柄への考え方、情報交換を行った。また、保護者との連携の仕方などについて具体を紹介しあった。
- (3) 幼稚園、小学校とも教育目標の基、指導要領及び教育要領に準じたカリキュラムを編成し、地域の特性を生かした指導・支援計画作成の工夫に力を注いでいることを共有できた。
また、小学校の研究授業、幼稚園の公開保育を参観することにより、指導・支援の具体と子どもの発達段階への理解を深めることができた。



課題

- (1) 園・小学校の職員交流の機会を増やしたが、参加者は施設長や管理職、主任相当の職員が中心であった。子どもの活動している様子を参観後、協議や意見交換の場をもちたいが、担任等の課業中の相互訪問には難しい課題が存在することを再認識した。
また、働き方の見直し等により、勤務時間外や夏季等の休業中の研修機会の設定も難しい状況である。

- (2) 小学校には、20を超える幼稚園・こども園・保育園から入学してくる。それぞれの保育方針で育ってきた子どもたちに対し、園と小学校で行った引継ぎ内容を有効に活用して指導・支援を行いたいが、一般的なスタートカリキュラムに留まっている状況である。